



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 147 号

R6.2.9

文責 中西 勉



### 「一生懸命」が伝わってきた校内学芸会

今週 7 日 (水) に、校内学芸会を行いました。最初の校長あいさつで、私は子供たちに「上手な演技をしなくてもいいです。ただ、“一生懸命”な演技を期待しています」と伝えました。そんな私の思いに応えるかのように、子供たちは今までの練習の成果を存分に発揮して、どの子も「一生懸命」に自分の役を演じていました。下見の時に比べて、一人一人の表現力が格段に向上していたのは、そのような「一生懸命」な気持ちがあったからだと思います。



▲集中力の高さが感じられる 3 年生の演技

いよいよ明日、学芸会本番を迎えます。どの子も自分の持てる力を 100% 出し切ろうと頑張るに違いありません。そんな男川っ子の「一生懸命」な姿を楽しみにしててください。



▲連携の取れた演技を見せる 2 年 3 組 (左) と 4 年 2 組



### 【バトン部】会場にあふれた一体感

本校のバトン部は、明日の学芸会での発表を最後に、その長い歴史に幕を下ろします。学芸会は、主として保護者や地域の方々に向けての発表であるため、男川っ子に向けての演技の披露は、校内学芸会が最後となりました。



▲演技の前に思いを述べるバトン部の子供たち

校内学芸会では、演技の前に、バトン部全員がステージ上に並び、最後の演技を精一杯頑張るという思いを述べました。その気持ちは、演技を見守る子供たちに伝わり、演技が始まると、曲に合わせて自然と手拍子が湧き起こりました。会場は、演者と観客とが一体となり、バトン部の有終の美を飾るにふさわしく、とても温かく優しい雰囲気になりました。このことは、バトン部の子供たちにとって、いつまでも良き思い出として心に残ることでしょう。



▲息の合った演技を披露するバトン部